

## 「CSR報告書2013」を読んで



2013年8月2日  
神戸大学大学院  
経営学研究科教授  
國部 克彦

### 1.京阪グループの社会的使命

2013年CSRレポートでは、冒頭に社長インタビューがあり、そこでは「京阪グループの役割と責任」について語られています。鉄道業という公益性が高くかつ地域性の強い企業であることから、地域に対する役割と責任を自覚し行動されていることが伝わります。これは報告書全体に言えることですが、安全、安心、快適をキーワードに様々な取り組みをされ、地域社会の活性化や発展を考え事業を計画されています。沿線価値向上の視点から、鉄道事業以外にも介護や文化などさまざまな分野に進出し貢献されていますが、これも地域を豊かにすることに繋がっていると思われます。採算を考慮しない社会貢献活動もちろん大切ですが、事業として活動することが地域の豊かさに繋がることこそ、公益性の高い企業の社会的使命であると思います。「住みたいまち」を作り、「選ばれる京阪」であり続けるため、今後も京阪グループの事業活動に期待します。

### 2.ステークホルダーとのコミュニケーション

京阪グループでは、「選ばれる京阪」という経営ビジョンが明確にされ、その実現に向けて活動されています。京阪を選ぶ人々つまりステークホルダーとのコミュニケーションについても努力され、外部からの意見を取り入れています。ステークホルダーダイアログを開催する企業は多くありますが、翌年きちんとフォローをする企業は少なく、長期的視野で意見を交換し、言ったこと言われたことについて、責任を持って行動することは大変重要であり高く評価されます。次は、これらの外部との意見交換とその成果をどのようにその他のステークホルダーに伝えていくか、ではないかと思います。具体的には、課題となった項目、その実績や進捗状況が一覧で分かれば、よりコミュニケーションが促進すると思います。環境の項目では、方針から計画、目標、実績までが一覧表で見ることが出来ますので、その他のCSR項目についてもこのような一覧表があれば、京阪グループが何を重要と考え、どう進んでいこうとしているのか、どこまで進んでいるのかということが分かり、ステークホルダーの理解がより深まると思われます。

### 3.鉄道事業以外の事業のCSR

本報告書は京阪電鉄の報告書であり、基本的には鉄道事業を主体として報告されています。鉄道事業は売上の6割、残りの大部分は不動産事業が占めていますが、CSRレポートでは不動産事業に関する活動報告があまり見られません。鉄道の安全報告を兼ねていることから、鉄道事業に関する報告が多くなるのは当然と思われそうですが、4割を占める不動産事業のCSR活動についても知りたいと思います。また京阪グループとしてみれば、流通業なども増加するため、「京阪グループ」としての社会的使命を果たす活動報告として、グループ全体のCSR活動についての情報開示が求められると思われれます。今後の報告領域の拡大を期待します。

## 第三者意見を受けて

この度は貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。  
明治43年に大阪・天満橋駅と京都・五条駅間が開業して百有  
余年、地域社会の歩みとともに京阪グループも事業展開を進め  
てまいりました。  
その間、地域の皆さまから寄せられるご期待の一つひとつお  
応えしてきた結果、今日の京阪グループが鉄道事業をはじめとする  
生活総合企業としての体をなし、地域の皆さまにご愛顧いた  
だける企業グループとして存続し続けることができていると実感  
しております。特に、人口減少社会を迎える昨今、先人から引き  
継ぐ創業者の精神に立ち返り、改めてご意見として頂戴している  
「京阪グループの社会的使命」を肝に銘じ、現在の事業は勿論

のこと新たにチャレンジする事業においても、地域社会の繁栄に  
貢献できる価値ある企業グループであり続けたいと強く願って  
おります。

今後とも、頂戴したご意見をもとに、CSR活動の充実はもとより、  
ステークホルダーとのコミュニケーションならびにCSR活動の情報  
発信についても工夫し、地域の皆さまをはじめステークホルダー  
の皆さまからご評価いただき、京阪ブランドの向上と「選ばれる  
京阪」への挑戦に向け、引き続き努めてまいります。

平成25年8月  
京阪電気鉄道株式会社  
経営統括室 経営戦略担当 部長 塩山 等